

めぐみイエス・キリスト教会

2023年2月19日(日)第三主日礼拝

午後2時より

週報「通算第645号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌148「夕べ雲焼くる」 p. 206

【交読文】 No.27 詩篇第90篇 p. 900

【賛美Ⅱ】 新聖歌419「起こし給え」 p. 674

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「ビジョン」

【聖書朗読】 使徒の働き22章22節～30節 新約p. 282下段

【礼拝説教】 《パウロと千人隊長》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所(使徒の働き22章22節～30節 新約p. 282下段)

22:22 人々は彼の話をここまで聞いていたが、声を張り上げて言った。「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしておくべきではない。」

22:23 人々がわめき立て上着を放り投げ、ちりを空中にまき散らすので、
22:24 千人隊長は、パウロを兵営の中に引き入れるように命じ、なぜ人々がこのように彼に対して怒鳴っているのかを知るため、むちで打って取り調べるように言った。

22:25 彼らがむちで打とうとしてパウロの手足を広げたとき、パウロはそばに立っていた百人隊長に言った。「ローマ市民である者を、裁判にもかけずに、むちで打ってよいのですか。」

22:26 これを聞いた百人隊長は、千人隊長のところに行って報告し、「どうなさいますか。あの人はローマ市民です」と言った。

22:27 そこで、千人隊長はパウロのところに来て言った。「私に言いなさい。あなたはローマ市民なのか。」パウロは「そうです」と答えた。

22:28 すると千人隊長は言った。「私は多額の金でこの市民権を手に入

れたのだ。」パウロは言った。「私は生まれながらの市民です。」

22:29 そこで、パウロを取り調べようとしていた者たちは、すぐにパウロから身を引いた。千人隊長も、パウロがローマ市民であり、その彼を縛っていたことを知って恐れた。

22:30 翌日、千人隊長は、パウロがなぜユダヤ人たちに訴えられているのか、確かなことを知りたいと思い、彼の鎖を解いた。そして、祭司長たちと最高法院全体に集まるように命じ、パウロを連れて行って、彼らの前に立たせた。

●ポイント1. 「千人隊長」とは？

■千人隊長(キリアルコス) キリオイ(千)とアルコー(先になる)の合成語。直訳は「千人の指揮官」。新約において主としてローマ軍団の将校を指す。陸軍大佐に相当する階級である。当時1軍団は、1隊約600人の歩兵からなる10隊に、約700人の騎兵が加わって編成された。各軍団には6人の千人隊長が配属され、1年のうち2か月交替で指揮をした。使徒の働きおよびヨハネの福音書に登場する千人隊長は、ともに1隊からなるエルサレムに駐留するローマ守備隊の指揮官と理解されている。

●ポイント2. 「ローマ市民」とは？

■ローマ市民(ローマイオス) パウロの時代、ローマ帝国は、西は大西洋から東はユーフラテス川、北はドナウ川やライン川、南はアフリカやアラビヤ、砂漠にまで領土を広げていた。もともと貴族に限られていたローマ市民権は、紀元前337年には一般市民にも与えられるようになった。市民は、投票、士官、判事の判決に反対して議会(後に皇帝)に告訴する権利が与えられていた。この市民権は、議会(皇帝)によって富者や社会的地位のある者に授けられた。パウロはパリサイ人の父を持ち、ユダヤ人の律法や慣習下に育ち、そのうえギリシヤ的教養を身につけていたが、生まれながらのローマ人であった。そのため、外国伝道旅行において、彼は多くの利点を持ち、迫害を受けた時にはこの市民権を主張し、特別な法の保護を受けた。ローマ市民には、十字架刑は執行される事はない。

●ポイント3. 「ローマ市民権」と「神の子ども」とは？

※エペソ人への手紙1章18節～19節「使徒パウロの勧め」(新約p.385)

◎先週の礼拝メッセージ【パウロのメッセージそのⅡ】

《紀元57年の頃、パウロは、ユダヤ人の人々に語り始めました。「私はその光の輝きのために目が見えなくなり、手を引いてもらって、ダマスコに入りました。すると、律法に従う敬虔な人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人たちに評判の良い、アナニアという人が、私の所に来て、そばに立ち、『兄弟サウロ、再び見えるようになりなさい』と言いました。するとそのとき、私はその人が見えるようになりました。」

アナニアとは、「主は恵み深い」と言う意味です。パウロは、彼が主の弟子であることを、明らかにしていません。これは、パウロのアナニアに対する、きめ細やかな配慮を感じさせます。

「彼はこう言いました。『私たちの父祖の神は、あなたをお選びになりました。あなたがみ心を知り、義なる方を見、その方の口から御声を聞くようになる為です。あなたはその方の為に、すべての人に対して、見聞きしたことを証しする証人となるのです。さあ、立ちなさい。その方の名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。』それから私がエルサレムに帰り、宮で祈っていたとき、私は夢心地になり、主を見たのです。『早く、急いでエルサレムを離れなさい。私についてあなたがする証しを、人々は受け入れないから。』」

サウロは、ダマスコからエルサレムに引き返したことが分かります。しかし、かつての仲間であったユダヤ人からは「裏切り者」とされ、使徒や信徒たちからは、「信徒を装った迫害者」と言うレッテルを貼られたのです。この後、サウロは生まれ故郷タルソに戻ります。

「『行きなさい。私はあなたを遠く異邦人に遣わす』」この言葉を聞くと、集まっていたユダヤ人たちは、再び騒ぎ出しました。この預言通りに、異邦人の国である日本にも、キリスト教が伝来して来たのです。そして、ただ恵みによって、私たちは救い出されたのです。》

お知らせ

※次回の礼拝は2月26日(日)午前10時からです。また、3月5日(日)の礼拝は、時間が変更となり、午後2時からを予定しています。